

北陸

アンコール遺跡群内の集落を訪れるインターンシップ生ら(左)



9〜15世紀に栄えた市に残るその石造建造物アプサラ公団は、10万9千9百99人もの住民が暮らす遺跡の集落住民の生活保全がシエムレアプだ。管理を一手に担う跡群内で、遺跡修復など幅広い分野で活動

世界遺産で就業体験

金沢大(金沢市)の学生が今夏、カンボジアの世界遺産「アンコール遺跡群」を管理する国立アンコール遺跡整備公団(アプサラ公団)でのインターンシップ(就業体験)のため現地へ渡った。塚脇真二・同大教授が、一帯の自然環境の調査で公団に協力している関係で毎年実施し、今回で4年目。学生8人は8月、遺跡のある地域を管理する職員と住民への聞き取りなどを行った。記者は現地で行方取材した。【横田美晴】



カンボジア・シエムレアプ市



アンコール遺跡群を代表する寺院遺跡アンコールワット。アンコール遺跡群内には、修復が続く遺跡も多い



アンコール遺跡群内には精巧な彫刻の施された壁面が数多く残る

アンコール遺跡群 金沢大学生 魅力づくり、環境改善

アンコール遺跡群の密林内の集落を、アプサラ公団職員のサロリン・リスさん(29)たちと訪れた。サロリンさんが、公団が管理する井戸の手動ポンプを作動させ、具合を確かめた。その横でメモを取るのには、金沢大3年、笹田絵美さん(20)と熱野華菜さん(21)だ。学生たちは公団の各部門に分かれて業務を体験。2人は期間中、主に観光地としての魅力づくりや、遺跡群内の集落の環境改善について検討する部門の視察や調査を体験。公団職員のフンスロング・レンさん(26)は、「管理する地区の施設の状態や課題を説明しながら、この仕事を始めた頃のことを思い出していた」と笑った。



アンコール遺跡群内のエリアには、森や集落も多い



管理するアンコール遺跡群内の施設について金沢大の学生(中央)に説明するアプサラ公団のスタッフ